

いながわ 特派員報告



高橋 祐子 田野 香織



収穫

の秋を迎えて

中央付近の稲がなぎ倒され食い荒らされていきます。農作業姿の男性たちが「イノシシだな」と話しながら、水田に入っ

豊かに穂が実った
ある水田しかしし：



中央付近の稲がなぎ倒され食い荒らされていきます。農作業姿の男性たちが「イノシシだな」と話しながら、水田に入っ

て見たりと色々な視点から水田を調査します。男性たちは、町長から任命された損害評価委員(以下「評価委員」)で、現在9人が活躍中です。

農業の万が一に備える「農業共済」

農業共済は農業の保険のようなもので、自然災害などによる損害に備える制度で、加入した農家は掛け金を支払っています。

災害による不作などの損害がでた時、農家が申請すると損害の内容と程度が評価委員によって評価され、その結果により、共済金を支払うかどうかや金額が決めます。

これは全国的な制度で農業の広い分野に渡りますが、猪名川町には米やそばなどの農業共済がありません。

損害の内容と程度を決める評価委員

現場では、評価委員が田や稲を観察し

収穫の秋を迎える猪名川町！今月は、広報初登場！
損害評価委員の活動内容特集します。
さらに、稲刈り当日のご一家や、JA兵庫六甲猪名川営農支援センターの談話も合わせて紹介します。

加味さんご一家の稲刈り取材



3世代で朝から稲刈りです。「今年はお米も出来栄もいいうえに珍しく大きな被害もなかった」と、皆さんほっとした表情です。今年によってはお米もコン

被害に苦しめられたり、稲刈り直前に台風が来て水田が水浸しのうえに稲が寝てしまい、手作業で刈ることもあるそうです。

忙しい日々のお褒美は自分で作ったお米を食べられることで、お米は買ったことがないそうです。銘柄はコシヒカリ。猪名川産のお米は味がいい、と父親の博三さんが太鼓判です。先祖代々受け継いできた水田でこれからも稲作を続けたいとのこと。

教えて！ 損害評価委員さん

今回は、イノシシやシカによる被害が主でした。町内では他にどんな被害がありますか？
台風や大雨などの風水害や、害虫、病気の被害などがみられます。
見ただけで、何による被害、被害率は何割、と判断されるので驚きました
実際に稲を刈って重量を計るときもあります。私たち自身、農業に従事しており、稲作経験者です。また、研修会でも勉強します。この後、兵庫県主催の研修会が町内で行われます。実際に被害申告のあった水田に行き、参加者全員で目利きの研修をします。
被害の評価が3割未満だと共済金がないそうなんです。3割未満の損害は、残念な

農業共済は農家が互いに助け合う制度です
公平性と客観性で厳密に評価しています

から農家の自己負担になります。評価には、「管理や対策は十分か？」といった自助努力の有無も加味します。
「ご自身たちも農業に従事しておられます、必ず3割以上の評価にしてあげたいという感情は働きませんか？」
農業共済の制度は、全国の農家から集まった掛け金を農家共同の財産として持っており、ここから、被害のあった農家に対して共済金が支払われる、全国の農家が互いに助け合っている制度です。
ですから、評価に個人の感情を入れることは絶対にできないのです。

猪名川産の新米入荷しています JA猪名川と道の駅いながわで購入できます

JA兵庫六甲猪名川営農支援センター
長の田中薫さんに取材しました
安全でおいしい猪名川産の米は、ここJA猪名川と道の駅いながわで購入できます。川西方面からも多くの人が買いに来られます。米本来の味と香りがして「ご飯って本当はこうなんだ」と実感いただけるかと思えます。
白米のおすすりは「いながわ源流の里」ですが、玄米を購入しコイン精米機で食べる分ずつ精米するのが理想的です。
新米は毎年好評で、購入された若いお母さんから「おいしすぎて子どもがび



もみすじの新米の袋詰め作業

っくらするくらいご飯を食べて、買ってすぐなくなると、とうれしい声を度々いただきます。
新米に、おかずはいりません。たきたてのご飯そのものがごちそうです。
▼お米購入に関する問合せ 同センター(☎767・8020)、道の駅いながわ(☎767・8600)

編集後記

加味さんのコンビンに乗せていただいて、一面の金色の稲穂を刈り取りながら、農家の皆さんが数々の苦勞を超えて収穫の日を迎えていらっしゃることをかみしめました。

公平性と客観性が大原則で、どの水田も同じ目線で見て、第三者的に評価するのが鉄則なのです。